

KANAGAWA HOHYUH CLUB



神奈川県放友会

Newsletter

Vol.18.No1. Jun.2025

第 69 号

神奈川県放射線友の会 (略称 神奈川県放友会)

〒231-0033 横浜市中区長者町 4 丁目 9 番地 8 号

ストーク伊勢佐木 1 番館 501 号

TEL 045-681-7573 FAX 045-681-7578

発行人 中村 豊

発行日 2025 年(令和 7 年) 1 月 1 日

巻頭言 健康日本 21 (第三次) で健康寿命を延ばしましょう！

明けましておめでとうございます。

会員皆様のお健やかな一年をお祈り申し上げます。

2024 年の放友会活動は会員皆様の協力を得て、「東濃地科学センターの見学」、「金沢文庫・称名寺見学」、「創立記念の会員懇親会」、「講演と音楽の集い」を無事終えることができました。報告を後のページに記載しておりますので、お読みください。

さて、健康で日常生活をおくることは最も大切なことで、幸せなことです。その指針となる国の政策「健康日本 21」を知り、健康な生活を送りましょう。

健康日本 21 とは

厚生労働省は、国民が主体的に取り組める国民健康づくり対策として、平成 12 (2000) 年度から「21 世紀における国民健康づくり運動 (健康日本 21)」を推進しています。平成 25 (2013) 年 4 月からは健康日本 21 (第二次) が開始されています。

基本的な目標は

- ①健康寿命の延伸と健康格差の縮小
- ②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底
- ③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上
- ④健康を支え、守るための社会環境の整備
- ⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善など健康増進に関わる分野が幅広く取入れられています。

健康日本 21 (第二次) の目標で悪化している項目

令和 4 年 10 月には、第二次の最終評価が行われ、報告書が取りまとめられました。その結果、具体的に悪化している例として

- ・メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の増加
- ・過剰体重の子どもの増加
- ・睡眠による休養を十分とれていない者の増加
- ・生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者 (一日当たりの純アルコール摂取量が男性 40g 以上、女性 20g 以上の者) の増加、などが報告されました。

神奈川県では、「女性の健康寿命」が全国平均より短くなり、「脂質異常症の減少」、「糖尿病有病者数の増加の抑制」、「メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少」、「成人の歩行数の増加」、「アルコール摂取量」などが悪化しました。そして「高血圧の改善」、「COPD の認知度の向上」、「野菜一日 350 g 以上摂取の増加」などの改善が認められませんでした。高齢者の健康分野では「介護保険サービス利用者の増加の縮小」が悪化し、「ロコモティブシンドローム (運動器症候群) の認知度の向上」などの改善が認められなかったと報告しています。

会長 中村 豊

健康日本 21 (第三次) の策定

2024 年からは第三次がスタートしています。そのプランでは「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」をビジョンとしています。

そのために、

- ① 誰一人取り残さない健康づくりの展開 (Inclusion)
- ② 実効性をもつ取り組みの推進 (Implementation)

を掲げ、さらに、将来の社会変化を

- ・少子化・高齢化がさらに進み、総人口・生産年齢人口が減少し、独居世帯が増加する。
 - ・女性の社会進出、労働移動の円滑化、仕事と育児、介護との両立や多様な働き方の広まり、高齢者の就労拡大など社会の多様化がさらに進む。
 - ・あらゆる分野でデジタルトランスフォーメーション (DX) が加速する。
 - ・新感染症を見据えた生活様式への対応が進む。
- などを予想しています。

基本的な方向として、掲げたビジョン実現のため、

- ①健康寿命の延伸・健康格差の縮小
- ②個人の行動と健康状態の改善
- ③社会環境の質の向上
- ④ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりが示されています。

健康日本 21 (第三次) の目標

- ・食塩摂取量 現状 13.5g/日 → 10g 未満/日
- ・野菜の摂取量 現状 292g/日 → 350g 以上/日
- ・90%以上の人に適正体重の認識
- ・70%以上の人に良質、適量の食事摂取
- ・日常生活の歩行数の 1000 歩増加
- ・十分な睡眠の確保
- ・多量に飲酒する人の減少
- ・糖尿病検診の受診の促進
- ・高血圧の改善
- ・高脂血症の減少
- ・生活習慣の改善等による循環器病の減少

高齢者の健康維持について

- ・外出について積極的な態度をもつ人の増加
- ・地域活動を実施している人の増加
- ・80 歳で 20 歯以上、60 歳で 24 歯以上の人の増加などが具体的に掲げられています。

健康寿命を延ばすためには健やかな生活習慣形成が必要です。今年も放友会の活動に積極的に参加して、健康寿命を延ばしましょう。

第2回 神奈川放友会「地層処分」学習活動

… 土岐瑞浪 東濃地科学センター見学記 …

福田 利雄 (会員 No11)

● 2024年9月26日11時、私は早瀬さんと小田原駅で落ち合った。新幹線改札口近くにあるSTARBUCKS COFFEE店で軽くランチ、お店に来ているお客さんの多くは外国の方、外国人の家族連れも多く見かけた。



12:07 発のひかり 641 で名古屋へ向かう。実は、今日から2日間、高レベル放射性廃棄物の地層処分を学ぶ目的で岐阜県の土岐瑞浪にある東濃地科学センター等を見学に出かけるのである。車内で新横浜から乗車した6名の参加者と合流した。JAERO 内藤さんが同行してくれた。

車内で新横浜から乗車した6名の参加者と合流した。JAERO 内藤さんが同行してくれた。

● 電気文化会館(でんきの科学館)(名古屋市中区)

13:14 名古屋到着、地下鉄で一駅先の伏見駅で下車、



電気文化会館(でんきの科学館)にて自由見学を楽しんだのである。当日は市内の小学生の団体が見学に来ていた。興味イッパイの小学生、あっちこっちで歓声が響き渡り、とてもうる

さかったが微笑ましく、何となく元気をもらった様にしたのである。電気をはじめ、環境やエネルギーについて楽しく体験しながら学べる中部電力の施設である。

3階フロアに「地球とエネルギー」のテーマで地球の環境やエネルギーの未来について考えよう!

放射線って何だろう? というエリアがあった。浜岡原子力発電所5号機の1/4模型が展示されていた。プロジェクトマッピング映像も鑑賞できた。

静岡県御前崎に所在する中部電力の浜岡原子力発電所の1~2号機が廃炉、3~6号機が定期検査中、運転中止、

計画中である事を知った。原子力発電所から出る「核のゴミ」高レベル放射性廃棄物の処分についての説明パネルと実物大のガラス固化体と人工バリアが展示されていた。地下300~400mの岩盤内(天然バリア)に埋め込まれる事により多重バリアで防護されるのである。



● 高レベル放射性廃棄物の地層処分について

16:00~17:00 事前勉強会、講師はNUMO 原一郎さん。45枚のパワポ画像(A4用紙12枚)の資料にて宿泊ホテルの8階会議室<白川>で行われた。



□ 高レベル放射性廃棄物の処分方法は地層処分が最適な方法として日本では法的にも認可され、全世界共通の考え方である。そして次の世代に負担を残さないためにも、原子力発電による電気を利用してきた我々の世代で出来るだけ早く地層処分に道筋をつけなければならない。我が神奈川放友会は地層処分の必要性を少しでも多くの市民に理解してもらうための広報活動をこれまで実施して来ている。

□ 原先生より、日本において処分地として受け入れを表明し「文献調査」を開始している北海道の寿都町と神恵内村、そして2024年に受け入れを表明した佐賀県玄海町の現状について説明があった。

地層処分場の概要として、ガラス固化体を40,000本以上埋設できる施設を全国で1カ所作る計画との事、文献調査、概要調査、精密調査、建設(地下施設・坑道)操業、閉鎖(地下施設・坑道の埋め戻し)、処分費用4兆円、100年以上を要する大事業である。

□ 地層処分について、これまで学び理解していた知識、情報が今回の勉強会で更に理解が深まった様に思う。講師の原先生は勉強会終了後に東京に帰られるとか、我々のためにわざわざ名古屋まで、感謝・感謝である。

● 懇親会(夕食)



17:50 宿泊ホテル近くの海鮮居酒屋で懇親会を兼ねた夕食会を開いた。高齢者が多い会であったがアルコール類の量は多かった(笑)。宿泊ホテルの大浴場は温泉であった。

● 土岐地球年代科学研究所 東濃地科学センター

朝 8:00 宿泊ホテル (名古屋クラウンホテル) 前から大型バスで岐阜県土岐市の東濃地科学センターへ向かう。高速道路を走り渋滞が少しあったが 9:10 過ぎに到着した。説明担当の JAEA 島田さんが出迎えてくれた。



センター正面広場前の大きな石碑は東濃地区の主な岩盤である花崗岩である。

すぐに会議室に案内され事前勉強会が開催された。資料パワポ 20 画像 (A4 用紙 5 枚) その他、多くの資料が準備されていた。

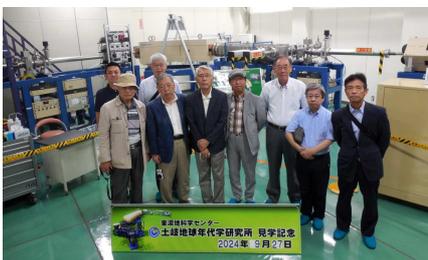


説明して頂いた JAEA の島田さん話上手、分かりやすく解説してくれた。この地に何故研究所が出来たのか、日本のウラン埋蔵量で東濃地方が全体の 60% と多かったのが研究施設を作ったとの事である。

東濃地科学センターでは、深地層の地下の地質構造、地下水の流れや水質の変化に関する研究、断層運動や火山活動に関連した研究を行っている。また地層処分に必要な岩盤の形成年代、地下水の滞留年代を測定する装置である加速器質量分析装置 (ペレトロン年代測定装置) を使用して研究されている。装置は加速器棟に設置されている大きな装置であった。



年代測定法・説明大変難しい内容であったが炭素-14 を用いる方法、自然界の炭素同位体比率は、炭素-12 (99%)、炭素-13 (1%)、炭素-14 (約 1 兆分の 1) で、炭素-12、炭素-13 は安定同位体、炭素-14 は放射性同位体で半減期 5730 年、つまり元の個数が 5730 年で半分になる、これを利用する方法である。例えば、炭素-12 の個数が 10 個、炭素-14 が 5 個の測定結果であれば、対象の資料は 5730 年前のものである。この炭素-14 を測定する装置が、加速器質量分析装置 (ペレトロン年代測定装置) である。装置の前で記念写真。



同様装置は全国で 15 台設置されている。地質以外、例えば古代建築物の年代測定にも利用されているとの事であった。

● 瑞浪地科学研究所(瑞浪超深地層研究所)

瑞浪地科学研究所に予定より 50 分遅れて 11:20 到着した。説明担当の JAEA 大澤さんが出迎えてくれた。



すぐに会議室に案内されて事前勉強会が始められた。瑞浪超深地層研究所の概要として、深度 500m 研究坑道の掘削工事の動画、深度 500m の研究坑道の紹介動画、研究坑道の埋め戻し作業

工事の動画、そして坑口付近の埋め戻しと地上施設の解体動画、現状での研究、作業予定等が報告された。研究所施設は瑞浪市の市有地で 2022 年までに返却、予定していた研究開発が 2019 年に終了したので 2020 年より坑道等の埋め戻し作業が開始し 2022 年に終了した。現在、あらためて市有地を借用し地下水の状態、環境モニタリングを行い、2027 年までに研究所全エリア施設、コンクリート撤去、更地に整備するとの事であった。

今回の見学が一番の私の楽しみとして、地下深度 500m の研究坑道が見学できると思込んでいたのである(残念)。



勉強会で報告されたパワポ画像の一部



現在の瑞浪地科学研究所の概観、青赤金網の部分立坑、換気坑道があった場所である。3 年後には何も無い更地に、それとも記念のシンボリックな碑が建っているかも。。

● 地層処分瑞浪東濃地科学センター見学会終了した



12:30 道の駅土岐美濃焼街道どんぶり会館で昼食、名古屋駅発 15:31 発ひかり 654 で帰途についた。有意義な勉強になった見学会であった。

金沢文庫と称名寺散策

2024年10月10日(日)神奈川放友会主催の「金沢文庫と称名寺散策」に参加したので報告します。

「史跡名所 ”称名寺と金沢文庫”」の散策は10年程前にもありましたが小雨の日でした。二度目の訪問ですが、秋晴れの好天に恵まれた楽しい一日でした。

京浜急行「金沢文庫駅」改札ホール10:30の待ち合わせをし、11名の参加者を確認できましたので引率者の担当理事・会長より挨拶を頂き、10:40出発でした。県立金沢文庫まではお互いに久しぶりの再会に話が弾み、ゆっくりした足で徒歩15分弱の道のりでした。

Am11:00 65歳以上の割引観覧料200円で全員の受付が終わると、解説案内を予約してあったので、地下大会議室へ案内された。武家の都「金沢北条氏と金沢文庫」で、収蔵庫、栄華物語、幕府の高官北条実時等の資料二万点以上などのビデオ観賞でした。

「久米田寺と称名寺」特別展示でした。時の僧侶は「称名寺と久米田寺」に憧れて集まっている。両寺院の歴史を解き明かす資料が、一階・二階展示資料室に特別展示されていました。資料は岸和田の久米田寺から借りた資料で、国宝級のものばかりの企画展示でした。

専属の学芸員により案内され説明を聞いた。

正直言って自分には理解し切れない学僧話であり、国宝級の資料も字が読めず理解できませんでしたが、熱心な解説を聴きながらの1時間余の鑑賞でした。

称名寺は鎌倉幕府の重鎮であった金沢北条氏の菩提寺で、各地の学僧が集まる律院であり、また真言密教弘道の道場、そして華嚴修学の一代拠点でした。

称名寺歴代長老の第三代長老の本如房湛睿(たんえい)は華嚴、戒律、真言などの碩学でしたが、彼が教学の研鑽を深めたのは和泉国久米田寺(大阪府岸和田市)でした。また、久米田寺は行基創建と伝わっており、鎌倉時代からの中世絵画や古文書が多数伝来しているそうです。

一方、湛睿とその周辺の僧侶が久米田寺で活動したことから、称名寺にも久米田寺に関する史料が多数伝来しており、現在、県立金沢文庫が管理する国宝「称名寺聖教・金沢文庫文書」の一角を占めているのだという。久米田寺と称名寺は遠く離れた両寺院ですが、中世には密接な僧侶の交流があり、互いの歴史や教学研究の面で深い関係にありました。今回の特別展では久米田寺と称名寺伝来の資料群に加え、湛睿を始めとする僧侶の活動と寺院間交流のなかで生成した資料を一堂に集め、中世久米田寺の歴史を紹介するとともに、知られざる両寺院の歴史を解き明かそうとした展示でした。

明恵上人像(久米田寺所蔵)、湛睿和尚像(称名寺所蔵)、安東蓮聖像(久米田寺所蔵)など、多数の国宝や重文を鑑賞できました。

学芸員の説明を聞き、資料を見ながら、以上のよう理解をしました。一時間ほどの鑑賞でしたが、金沢文庫が和泉国久米田寺と繋がりがあった、その文化を改めて勉強したという事でした。



金沢文庫玄関前で参加者の集合写真を撮りました。

解説が長かったので午後一時を回っていたと思います。称名寺へは、広重の金沢八景の錦絵が飾ってあるトンネル道を抜け、北条実時の銅像を見ながら称名寺境内に入った。反橋と仁王門の屋根が見える何字ヶ池前に出た。金堂と平橋・反橋が眺められる浄土庭園です。池には錦鯉が悠々と泳いでいた。

「称名寺」は鎌倉時代に北条実時が、今の称名寺がある場所を別荘として住んでいました。そこに作った持仏堂が称名寺で、金沢北条氏の菩提寺と学問寺



として栄えたところですが、実時の子・顕時(あきとき)、孫の貞顕(さだあき)の時代に称名寺は繁栄しており、仁王門は1818年に建てられています。

お腹がすいたので、称名寺はほどほどにして金沢文庫駅前の商店街に足を運びました。早々に見つけた和食の店の2階に席を取り、ビールで乾杯し懇親を深めました。皆さんからは、「こんな企画が、また欲しいですね」という声が聞こえていました。

また、幹事からは11月の懇親会及び12月の講演会と音楽の企画について情報伝達がありましたが、ゆっくりと歓談出来たと思います。3時を過ぎていたと思いますが、4人程のグループがはしご酒を求めて解散をしました。(記 長谷川武)

創立記念会員懇親会 報告

早瀬 武雄

2024 年（令和 6 年）11 月 17 日（日）、神奈川放友会創立 17 周年の記念日に「会員懇親会」を桜木町ワシントンホテル 5F「ダイニング&バー ベイサイド」で開催しました。

当日、18 年目に向けた「よくぞ続いた放友会、これからどうする？」と題して参加者からの近況報告と提言等をお聞きしました。活発な近況報告と提言で話が進み、予定していた時間がすぐに過ぎてしまいました。出席した皆様有り難うございました、又このような機会を提案いたします。

神奈川放友会の創立は、2007 年（平成 19 年）11 月 17 日です。当時の技師会は、同年の 4 月 14 日（土）に「先輩技師と熟年技師との情報交換会」を開催、技師会への意見、退職者会の発足等について意見が出されました。

同年 5 月 28 日（月）「神奈川放友会」発起人会議を開催、設立の確認等と発起人代表を小松崎眞一氏に決定しました。

同年 9 月 12 日（水）第 2 回「神奈川放友会」発起人会議開催し設立総会の開催と日程、役員 の推薦等、総会議題等決めました。

そして、2007 年（平成 19 年）11 月 17 日（土）神奈川県放射線技師会創立 60 周年記念式典が横浜エクセルホテル東急にて行われた同日に放友会が創立しました。

創立当時の役員は、

会長	長谷川 武	副会長	橋口 邦紘
理事	小松崎眞一	・ 村松 康久	・ 石渡 良徳
	草柳 信彦	・ 各地域放射線技師会代表	
監事	柳生 博	・ 萩原 明	

で活動をスタートさせました。

この間の活動の節目には、

創立 10 周年記念式典を 2017 年（平成 29 年）11 月 11 日（土）横浜中華街「ペキンカオヤーテン」で開催、「神奈川放友会 10 年の歩み」を発行しました。創立 15 周年 2022 年（令和 4 年）には、「創立 15 周年 記念誌」を発行しました。

活動は、会員の情報交換と懇親会の開催。大磯「旧島崎藤村邸」等の見学会・JAXA 宇宙科学研究所と相模原市立博物館見学等が開催しました。

2011 年（平成 23 年）3 月 11 日に未曾有の東日本大震災が発生しました。東京電力福島第一原子力発電所は翌日の 12 日と 14 日に、水素爆発やメルトダウンを起こし原子力発電所の重大事故になりました。事故後、放射線について正しく理解するための専門書が多く発行され、新聞・テレビ報道でも放射線の危険やその解説が盛んに報道されました。放友会会員は診療放射線技師であり、放射線についての知識を有しています。東京電力福島第一原子力発電所の事故が国民に不安を与えることを理解し、放友会の目的である「社会に貢献」することから、「食と放射線」の冊子を編集、事故後の 2012 年（平成 24 年）9 月 15 日に副読本として発行、その後 2 冊発行しました。この活動を契機に東京電力福島第一原子力発電所の廃炉作業の見学、NUMO（原子力発電環境整備機

構）学習支援事業に参加し、原子力発電使用済燃料の地層処分についての学習をしてきました。

令和 5 年度総会で、15 年間就任していた長谷川会長が退任し、会長に中村 豊氏が就任、副会長には橋 亨・小嶋 昌光氏が就任しました。長谷川 武 氏は名誉会長に就任しました。新しい体制で創立 20 周年を目指し神奈川放友会活動がスタートしました。

早速、令和 5 年 12 月開催の「市民公開講演会」による「原子力発電の高レベル放射性廃棄物」地層処分の現状について、を開催いたしました。又、今年度は、東濃地科学センターの見学と第 2 回「講演と音楽の集い」を開催しました。そして、今年の神奈川放友会の活動は地域散策・懇親会の開催・Newsletter の発行・ホームページ「憩いの館」開設で会員の親睦、情報公開等を行っています。

最近では新型コロナの流行の影響により、活動が NUMO 学習支援事業に少し偏りすぎていますが、原発の使用済燃料地層処分について知り、広報することは、重要な事と思っています。NUMO の広報を担当している日本原子力文化財団からは評価を得ており、第 2 回「講演と音楽の集い」の運営に相当な支援を得ています。

今回の参加者 12 名のうち、現役として働いている会員・NPO 活動を立上げ活動・町内会活動を重視・全国飛び回り講演等積極的に活躍している人達から、医療人としての診療放射線技師の改革、これからの放友会に対する具体的発言がありました。その内容は、

- ・ 職域の拡大問題、働き方改革、など大いに発信すべき。
- ・ 会員拡大に向けて、現役の方に放友会活動を知ってもらうため「Newsletter」を放射線技師会員に発送する。
- ・ 退職した会員はどのような活動をしているかを知り、具体策を考える。 等でした。

要約した内容に関係することが、神奈川放友会「構想委員会」福田利雄委員長が実施した「2020 年 1 月実施の神奈川県放射線友の会活動に関するアンケート調査」に報告されています。（ホームページに掲載されていますので、是非読んでください。）

創立記念懇親会出席者

中村 豊	長谷川 武	橋 亨
福田 利雄	千田 久治	橋口 邦紘
早瀬 武雄	小松崎眞一	野口 雄司
星野 光雄	松枝 由美	坂井 茂夫
日本原子力文化財団総括事業部長 有馬 智洋		



出席者全員 集合写真

第2回 男女共同参画センター横浜フォーラムでの神奈川放友会

講演と音楽の集い

福田 利雄

● はじめに

令和6年師走に入った12月1日(日)、神奈川放友会主催の「講演と音楽の集い」が戸塚駅近くの男女共同参画センター横浜フォーラム・ホールにて開催された。このイベントは、原子力発電所から出る高レベル放射性廃棄物の地層処分の理解を目的に学習活動して来た本会が、原子力発電環境整備機構(NUMO)学習支援事業に応募し支援を受ける事になり開催となった。講演は東海大学工学部教授若杉圭一郎先生、令和5年12月に開催した市民公開講演会で講演して頂きとても分かりやすい説明と好評価であった先生で再度お願いしたのである。音楽の集いは本会副会長小嶋さんが所属する「音楽の杜管弦楽団」による癒しの音楽会である。平成26年(2014年)に「第1回講演と音楽の集い」を横浜みなとみらい小ホールにて開催され、音楽会が開催されている。当時の演奏楽団員は13名と少なかったが、今回は62名フルオーケストラによる迫力ある素晴らしい演奏会であった。

● 広報活動

「講演と音楽の集い」開催が決定し、広報活動に必要なポスター、プログラム、本会が企画実施してきた地層処分学習活動報告書等の作成を役員会で検討し広報に努めた。作成した広報資料を日本原子力文化財団(JAERO)に校正編集を依頼したところ、素晴らしい出来上がりが見映えのあるポスター、プログラムになった。



本会の地層処分学習活動報告書も分かりやすく、インパクトのある素晴らしい4頁のリフレットに編集して頂き300部印刷して頂いた。内容は、

- ① 放射性廃棄物の処分方法
- ② 青森六ヶ所村見学
- ③ 幌延地層センター見学
- ④ 東海第二発電所見学
- ⑤ 東濃地科学センター見学

受付時、アンケート、広報資料含め6点配布された。

◎ 第一部 講演

12:00 橋副会長の司会進行で、最初に中村会長より挨拶があり、次いで本日の講師である東海大学工学部教授若杉圭一郎先生の地層処分に関する講演が開始された。

● 知っていますか! 「地層処分」

一般市民の多くの方に原子力発電の使用済燃料の処分について知って頂くため、我が国の高レベル放射性廃棄物の地層処分の概況について講演して頂いた。講演資料として、パワポ画像29枚(A4用紙裏表8枚)受付時配布された。講演内容は以下の通りであった。

- ① 我が国のエネルギー事情
- ② 高レベル放射性廃棄物とは?
- ③ 地層処分とは?
- ④ 我が国の地層処分事業の現状
- ⑤ まとめ



若杉先生は話上手、前回講演会と同様とてもわかりやすく、ていねいに説明して頂いた。地層処分事業(公募方式)、処分地選定が難しいこと改めて認識できた。国民の理解、処分地の地域住民への安心や納得が得られる

取り組みが地層処分事業を進める事で重要である(トランスサイエンスの問題)と強調し説明されていた。

□我が国の地層処分計画と処分地選定の経緯

我が国の地層処分計画と処分地選定の経緯(1/2)

- 1962年:原子力委員会報告書「放射性廃棄物の処分方法の検討開始」
- 1966年:原子力発電の利用開始
- 1976年:原子力委員会「当面地層処分に重点を置いて検討」⇒地層処分研究開始
- 1992年:国立研究機関(原子力機構)が地層処分研究の成果を取りまとめ(第1次取りまとめ)
- 1999年:原子力機構による第2次取りまとめ⇒我が国でも安全な地層処分の実施は技術的に可能
- 2000年:特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律制定:実施主体として原子力発電環境整備機構(NUMO)を設立
- 2002年:NUMOが処分地選定の公募を開始

我が国の地層処分計画と処分地選定の経緯(2/2)

- 2007年:高知県東洋町が応募
 - 高知県・徳島県の両知事が国やNUMOに文獻調査への反対を申し入れ
 - 反対派が町長の解職請求(リコール)の手続きを開始
 - 町長が辞職。「選挙で住民の信を問う」⇒賛成派の前町長と反対派の町長候補の一騎打ち
 - 反対派の候補が当選⇒応募の取り下げ
- 2015年:最終処分に関する基本方針改定(国からの申し入れ方式を追加)
- 2017年:国が科学的特性マップを公開(全国を対象として処分地としての適合性を客観的に整理)
- 2020年:北海道寿都町、神奈川内村で文獻調査開始
- 2024年:佐賀県玄海町も文獻調査に応募
 - 11/22 NUMOが文獻調査報告書を寿都町、神奈川内村へ提出。自治体の首長・知事が概要調査へ進むかどうかを判断

(若杉先生講演資料より)



講演終了後、会場より2名の方が質問された。若杉先生、ていねいに画像を再表示して質問に答えて頂いたのである。戸塚地区のタウンニュースにも開催案内が掲載されたので

一般の方も多く来てくれた様に思えた。

● 神奈川放友会「地層処分」学習活動の報告

神奈川放友会長谷川武名誉会長より、前述広報活動の項で紹介した地層処分学習活動のリフレットを手にし、2019、2021、2023、2024年に見学した4カ所についての学習活動の成果について簡単に報告された。

● 「知爽の人」取材を受ける

原子力文化財団(JAERO)の「知爽の人」取材チームの方々が今回の「講演と音楽の集い」動画で記録してくれた。休憩時間、中村豊会長、長谷川武名誉会長へのインタビューも行われた。



日本原子力文化財団は、高レベル放射性廃棄物の地層処分事業への関心を全国に広めるべく様々な活動を行う人たちの声を紹介した特設サイト「知爽の人」

を設け、順次動画コンテンツを公開している。公開される動画楽しみである。

◎ 第二部 癒しの音楽・・・

13:20～音楽の杜管弦楽団の演奏会が始まった。指揮者、楽団員、黒の正装、総勢62名を超える編成でのフルオーケストラで迫力ある音楽を聴くことが出来た。



今回の「講演と音楽の集い」の会場での受付を楽団員の家族、お子さん達も手伝ってくれた。和やかな雰囲気での受付、参加者も笑顔で会場に入場していた。

音楽の杜管弦楽団は15年前に「弦楽アンサンブル音楽の杜」として活動をはじめたとのことです。今回の音楽の集いが決定してから休日、日曜日に練習を重ねて来たようです。プロの楽団に負けない素晴らしい演奏であった。



管弦楽団の指揮者は、野武重忠氏、83歳、トロンボン奏者として活躍し、アマチュアオーケストラや吹奏楽団の指揮・指導に当たっている。83歳とは思えない立派な指揮であった。先生の指揮のもと魅力的な曲の演奏を楽しませていただきました。

● 本日の演奏曲目は・・・

- ① チャイコフスキー くるみ割り人形組曲
- ② ホルスト 吹奏樂のための第一組曲
- ③ ドヴォルザーク 交響曲第9番(新世界より)



アンコール曲含め、約2時間素晴らしい演奏が続いた。何度か耳にした曲目が演奏されると懐かしく聞き入ってしまった。最後の演奏が終了し、可愛いお子さんから指揮者とコンサートミストレスに花束が渡された。

● 一般参加者へ「知爽の人」取材を行う

15:10「講演と音楽の集い」終了後、2階出口付近で一般参加者への取材が行われていた。地層処分に関して一般の方には難しい内容と思われたが・・・家族で来られていた様で、お母さん、息子さん夫婦、そして大学生の兄妹さん



への取材インタビューであった。感想の言葉は良く聞き取れなかった。後日、動画コンテンツが公開されるのを楽しみにしている。

● 講演と音楽の集い・・・終えて

15:30、ホール会場にて音楽の杜管弦楽団の世話人である小嶋副会長の進行で閉会のセレモニーが行われた。楽団員の方はほとんど私服に着替えていた。最初に神奈川放友会中村豊会長、今回の放友会企画「講演と音楽の集い」の開催に多大な支援を頂いた日本原子力文化財団(JAERO)の有馬智洋部長、そして最後に指揮者である野武重忠さんが感謝の言葉を述べた。舞台の上で楽団員全員での記念撮影を撮り解散となった。

● 16:00 横浜フォーラム会場の放友会控室にて、実行役員会が開催され、早瀬総務理事より、今回の「講演と音楽の集い」参加者219名であったとの報告がされた。役員の皆様本当にご苦労様でした。



みんなの広場

■ 2024 年（令和 6 年）度 秋の叙勲 本会会員 上前 忠幸さん受章

元大和市立病院放射線科技師長 上前忠幸（75 歳）さんが、令和 6 年度の叙勲で旭日双光章を受章されました。受章おめでとうございます。

■ 小松崎眞一さん、相模原市市制移行 70 周年 で市政功労表彰を受ける。

本会監事の小松崎眞一（81 歳）さんが、相模原市市制移行 70 周年記念式典で（11 月 20 日）で市政功労表彰（自治会活動）を受けました。

■ 「伝統的酒造り」無形文化遺産に登録

日本の伝統的酒造りがユネスコ無形文化遺産に登録されることが、12 月 4 日に全会一致で決まった。日本の無形文化遺産登録は 23 件目。糴菌を米や麦などの穀物に繁殖させ発酵を促し、風味を豊かにするのが特徴で、杜氏や蔵人の洗練された多様な酒を生み出す伝統的酒造りです。

和食の無形文化遺産に合わせて、日本の食文化がより深みのあるものになりました。世界の酒関連の無形文化遺産には、古代ジョージアの伝統的なワイン製造方法、ベルギーのビール文化、モンゴルの馬乳酒の伝統的な作り方と習慣などがある。

■ 2024 年ノーベル賞

平和賞は日本被団協が受賞、物理学賞、化学賞は AI（人工知能）関連が受賞。平和賞は核兵器廃絶、核実験禁止を訴え続けている日本原水爆被害者団体協議会が受賞した。物理学賞は人間の脳神経をまねたニューラルネットワークで記憶の仕組みを再現した理論が受賞。そして、その理論を拡張して大量のデータから AI が自ら特徴を見出して学ぶ「深層学習」の技術に与えられた。

これらの AI の成果は生活、産業や学術に役立っている。化学賞はタンパク質をコンピュータで設計に成功した研究と AI を使ってタンパク質の構造を正確に予測するプログラムの設計の研究が生命科学の研究を進展させた理由として受賞した。AI は現代社会に無くてはならないものになりつつあるが、物理学賞受賞者のヒントン教授は「我々は自分より賢いものを持った経験がない。手に負えなくなる脅威がある」とも述べている。

ノーベル平和賞受賞式が 12 月 10 日、ノルウェーの首都のオスロで行われた。

■ 革新軽水炉の安全性などについて 原子力規制委と原子炉メーカー事業者との会 合を決定

原子力規制委員会は政府が建設を目指す「革新軽水炉」を巡り、新しい規制の必要性を検討する新たな会合を原子力規制庁と事業者が参加し、原子炉の安全性などを意

見交換する。革新軽水炉は既存の軽水炉を改良した大型の原発である。メーカー側は大型航空機が衝突しても放射性物質を外部に漏らす事故が起きない、安全性が高い設計としている。政府が廃炉を決めた原発敷地内での建て替えを推進する考えを打ち出している。

■ 「認知症基本法」の施行と認知症増加の推計を 発表

厚生省は 2040 年には、65 歳以上の高齢者のうち、およそ 3 人に 1 人が認知症か軽度認知障害（MCI）になるという推計を公表した。この推計は福岡、石川、愛媛、島根各県の高齢者を対象にした調査データをもとにしている。しかし、近年では、認知症の発症割合が低下しているという調査もある。認知症のリスク要因とされる喫煙率の低下、高血圧や糖尿病などの治療法が発展したことにより認知機能も低下が抑制された可能性があると分析されている。2024 年 1 月には「認知症基本法」が施行され、必要な目標や達成時期の基本計画を造る予定になっている。

■ 大谷 MVP

「たゆまぬ努力さらなるたかみへ」

けがで投げられないシーズンにあって、打撃力と走力で圧倒的な輝きを放った。新天地でも明るく熱いプレーを貫き通した。世界最高の野球選手の進化は止まらない。米だいいー・ドジャースの大谷翔平選手が 2 年連続 3 度目となるリーグ最高殊勲選手（MVP）に選ばれた。過去 2 回と同様、投票権を持つ記者 30 人全員が 1 位票を投じる「満票」だった。大谷選手はア・リーグで 2021 年と 23 年に MVP に輝き、今回はナ・リーグで選ばれた。両リーグでの受賞は歴代 2 人目だ。（朝、国民が楽しみに見ていた 1 年であった。）

（参照 11 月 24 日、読売新聞朝刊社説より）

■ COP29（国連気候変動枠組み条約第 29 回締 約国会議）途上国支援、先進国と溝深く

11 月 22 日までの会期を延長し、各国の交渉が続いた。途上国の温暖化対策のために先進国が拠出している「気候資金」を巡り、先進国と途上国の溝は深く、合意が見通せない。

途上国への資金拠出を条約で義務づけられている日本を含む先進国 23 か国と欧州連合（EU）の執行機関・欧州委員会に、「特大化石賞」を授与すると発表した。化石賞は、温暖化対策に後ろ向きとされる国に贈られるもので、日本が選ばれるのは G7（先進 7 か国）として授与された 15 日に続き、今回の COP で 2 度目となる。24 日、途上国で地球温暖化対策を進めるための資金を巡り、先進国主導の調達目標を 2035 年までに年 3000 億ドル（約 46 兆 5000 億円）とすることで合意し、閉幕した。

編集後記

☆ ★ ☆ ★

会員の近況報告をお寄せください。